

図書館福袋サービスの実施内容と利用者の認知

須賀 千絵

1. 図書館福袋とは

1.1 定義と起源

図書館福袋とは、テーマや対象年齢などを決めて本のセットを作り、本の中身を隠して、紙などで包装したまま貸し出すものである。通常、テーマや対象年齢などの手がかりのみが包装の表に明示される。通常の貸出とは別に、年始などの特定期間のイベントとして行われることが多い。公共図書館では広く実施されており、図書館界において図書館サービスのひとつとしてすでに認知されている¹⁾。一例として、図1・図2に、浦安市立図書館（千葉県）での実施の様子を示す。



図1 浦安市立図書館（千葉県）の図書館福袋「図書館 XYZ:中身は何だ?」(2016年)



図2 通常の福袋とは異なり、中身は1冊で、それぞれの本の書き出しなど、一部分が明示されている。

図書館福袋の実施例は多いものの、それについて書かれた文献はほとんどなく、はっきりとした起源は不明である。2010年の国立国会図書館の『カレントアウェアネス』が、毎日新聞電子版の報

道に基づいて、同年1月に実施された宝塚市立図書館（兵庫県）の事例を紹介したことが、全国に知られるようになったきっかけのひとつであったと思われる²。宝塚市立図書館の亀井は、福袋を始めたきっかけについて、テレビで年末の福袋報道を見て実施を思いついたが、貸出終了後に浦安市立図書館（千葉県）の先行例があったことを知ったと述べている³。このほか早い例では、東松島市図書館（宮城県）が2008年から絵本福袋を始めており⁴、2009年4月の朝日新聞の記事中で紹介されている⁵。これらの事例からわかるように、図書館福袋は、特定の人物や図書館が考案したサービスというより、複数の図書館が同様のアイデアでそれぞれサービスを始めたものと思われる。

1. 2 図書館福袋の位置づけ

図書館福袋は、利用者に未知の本を紹介するサービスである。欧米では readers' advisory service という名称で、対話形式での本の紹介サービスが広く行われており、その起源は1920年代～1940年代頃にさかのぼる（p.3）⁶。readers' advisory service のテキストを見ると、対話によるサービスのほかに、プロモーションの手段として、展示やブックリスト作成について触れているが、図書館福袋にあたる活動には言及がない⁷。欧米の実践例を調べても、類似のサービスは見られないので、図書館福袋は日本独自のアイデアであると言える。

日本では readers' advisory service にあたる訳語として、「読書相談」と「読書案内」の2つがある。『図書館情報学用語辞典』では「読書相談」は「利用者との対話を通して、資料選択に関する相談に応じ、その要求を明確にして、資料の選択、探索、入手を個別に援助するサービス」と定義している（p.173）⁸。そして「読書案内」は、「利用者からの要求を待つことなく、新着図書や特定のテーマに関する書誌や資料リストなどを作成することで行われる」（p.172）⁹として、利用者からの要求の有無とサービス方法で両者を区別している。しかし公共図書館の基本的なサービス理念として、図書館界で広く共有されている『市民の図書館』では、貸出が読書案内と予約を含む概念であると説明したうえで、「貸出カウンターで大勢の人の前で質問するのは気おくれするから、なるべく読書案内デスクは独立していた方がよい」と述べており、読書案内が対話形式であることを前提とした記述になっている（p.61）¹⁰。このように「読書案内」と「読書相談」は必ずしも厳格に区別されているとは言えないが、両者が、展示やブックリストの作成から対話形式の相談を含む一連の未知の本を読者に紹介する活動を指し、図書館の重要なサービスであるという認識は共有されていると考えてよい。図書館福袋は、未知の本の紹介と言う意味でこれらの活動に含まれ、『図書館情報学用語辞典』の定義にしたがうと、利用者の要求に先行して本を紹介する「読書案内」の活動の一部である。

2013年の国立国会図書館の調査によれば、公共図書館の読書案内サービスの実施率は、「レファレンスサービスとして実施」61.8%、「レファレンスサービスとしてではないが実施」29.4%を合わせ、90%以上であった（p.51-52）¹¹。しかし「読書案内」、「読書相談」の実践者用テキストなどは発行されておらず、実践報告もほとんどない。実際に何をすべきか、何をしているのかという点では共通認識がなく、十分な議論がなされていないと言える。

2. 本研究の目的と方法

本研究は、図書館福袋を読書案内サービスの一部であると位置づけたうえで、図書館福袋の実施内容と利用者の認識を実証的に明らかにすることを目的とする。新聞報道等から全国で図書館福袋が広く実施されていることはすでに知られているので、全国的な実施概況ではなく、実施方法の詳細と利用者側の認識に重点を置いた。

調査は次の方法で行った。

第一に、利用者の福袋に対する認識を知るために、図書館福袋に関する Twitter の投稿 (tweet) を収集、分析を行った (調査1)。Twitter は一般市民に普及している SNS のひとつであり、文字情報のほかに写真などの投稿ができ、袋を開ける前の福袋の形状や開けた後の中身の記録がされている可能性がある。また時期を限定してのキーワード検索が可能である。これらの特性から Twitter がデータ収集の方法として適切であると判断した。

対象となる投稿記事は2020年3月から8月までの期間とした。この期間は、新型コロナウイルス感染拡大によって、政府が緊急事態宣言を出し、公共図書館がサービスの縮小や休館を余儀なくされた時期にあたる。政府は、2020年4月7日に、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を行い、4月16日に、対象を全国に拡大した。その後5月中旬以降段階的に宣言を解除し、5月25日に、最後に残った首都圏1都3県と北海道を解除した。図書館の休館状況は図3の通りである。緊急事態宣言の発令に伴い、全国で開館時間の短縮や休館が拡大し、5月8日の時点で、都道府県立、市町村立図書館とも9割以上の館が休館する事態となった。休館は緊急事態宣言の解除に伴い減少し、6月中旬の時点ではほぼ解消された (図3)。緊急事態宣言の前後で、利用者の滞在時間の短縮が推奨されたことから、貸出を予約資料に限定し、書架への立ち入りを認めない館も出現した。そこで利用者自身が本を選ばなくても貸出ができる手段として、あらかじめ本をパッケージした図書館福袋が注目されることとなった¹²。

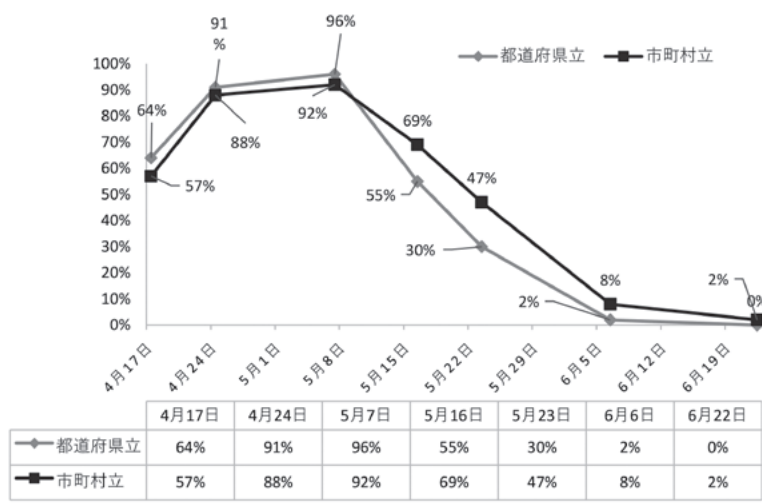


図3 全国の公共図書館の休館率の推移
 データの出典：COVID-19の影響による図書館の動向調査 (SAVEMLAK)
<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9>

第二に、個々の館での実施準備を含む業務の概要とサービスの成果を知るために、図書館員に対するインタビュー調査を行った（調査2）。インタビュー調査の対象は、生駒市図書館（奈良県）副館長入井知子氏である。図書館福袋を実施している館は多いが、その中から生駒市図書館を選択したのは、Twitter 調査の過程で、生駒市図書館の図書館福袋について報道した記事が注目されていることが明らかになったことによる（後述）。インタビューは2020年9月11日にweb会議システムのZoomを使用して行った。

3. Twitter 調査（調査1）

3. 1 調査の方法

2020年3月から8月の投稿に限定して、「図書館」「福袋」のキーワードでTwitterの検索を行った。検索結果から、アカウントのプロフィール情報などを参照し、botによる自動化された投稿記事は分析対象から除いた。収集した投稿を、投稿者の属性、図書館名、福袋のテーマや形状などの実施内容、福袋サービス利用経験の有無（利用者の場合のみ）、サービスへの認識の観点から分析した。

3. 2 結果

(1) 総数と投稿者の属性

分析対象の投稿の総数は333件であった。公共図書館における実施と思われる事例が大多数であるが、一部、学校図書館や大学図書館の例もあった。厳密に館種を特定できない場合も多かったため、館種は区別せずに一括して扱った。

投稿者の属性は次のように分類した。「利用者」は、直接、利用館で福袋を見たり借りたりしたことを明記している個人である。投稿時の利用のほかに、過去の利用経験について述べた投稿も含む。「利用者以外の個人」は、新聞記事を読んだ感想など、福袋の利用経験が確認できない個人、「福袋実施館」は、福袋を実施した館の公式アカウントやそこで勤務していることを明記している個人、「福袋実施館以外の図書館、図書館関連機関」は、福袋を実施していない図書館、出版社、大学の図書館学関係の学部・学科などのアカウントからの投稿である。投稿の記述やアカウントのプロフィールから詳細がわからないものは「不明」とした。

投稿者の月別内訳は表1の通りである。2020年3月から8月までの合計は、「利用者」87件、「利用者以外の個人」188件、「福袋実施館」27件、「福袋実施館以外の図書館、図書館関連機関等」が27件、「不明」が4件であった。3月の「利用者以外の個人」のうち112件は、生駒市図書館（奈良県）の図書館福袋を紹介する朝日新聞デジタルの記事を引用した投稿である¹³。記事には「悩んだ末の福袋 こんな時でも『読んでほしい』」というタイトルがつけられ、電子版の記事のサムネイル写真も生駒市の図書館福袋のものであった。ただしこの記事は、生駒市の福袋以外にも、小諸市立図書館（長野県）の貸出数の制限撤廃と期間延長、山形市立図書館の児童利用制限など、複数の図書館の取り組みを紹介する内容になっている。

表1 収集した Twitter 投稿数の内訳 (2020年3月～8月) (単位: 件)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
利用者	22	14	12	18	4	17	87
利用者以外の個人	132	21	16	16	2	1	188
福袋実施館 (図書館員含む)	10	3	1	6	4	3	27
福袋実施館以外の図書館、 図書館関連機関等	21	2	4	0	0	0	27
不明	0	0	1	2	1	0	4
計	185	40	34	42	11	21	333

(2) 福袋の種類とテーマ

投稿から、子ども用の福袋と大人用の福袋があることがわかった。投稿によって、両方あったと明記されているものと、片方だけにしか言及のないものがある。しかし投稿の記述だけでは、その利用者が利用したものだけを記載しているのか、そもそもその図書館に片方しかなかったかを判断することはできない。

福袋には、通常、何らかのテーマが設定され、福袋の外側に明示されている。大人用については、テーマを記載した投稿の記述や写真から、次の3種類があることがわかった。

まず、内容説明的なものである。「しかの魅力がギッシリ珍しいしかの写真集」(柏原市立図書館(大阪府))¹⁴、「夏だ! キャンプだ! パーベキューだ!」(京都市中央図書館)¹⁵、「忙しい朝のお弁当作り」(江戸川区立篠崎図書館)¹⁶などがこれにあたる。

次に、内容説明よりも大きな区分で、ジャンルなどを特定したものである。「ロリータを読む」(三重県立図書館)¹⁷、「北欧ミステリー ②暗くても大丈夫な人へ」「生物学フィールドワーク」(岩手県立図書館)¹⁸などがこれにあたる。図書館で用いる日本十進分類法などである程度特定できるものも多い。

最後は、テーマを見ただけでは、内容が具体的にわからないものである。「作者がお医者さん」(横浜市立図書館)¹⁹、「こんなのあります! 岩手の人の本」(岩手県立図書館)²⁰、「コーヒーが飲みたくなる本」(図書館名不明)²¹、「バスに乗りたい」(三重県立図書館)²²などがこれにあたる。

一方、子ども用には、テーマがなく、年齢や学年などの対象の目安が設定されただけのものも多数あった。さらに、記述内容から大人用だと思われるが、何も手がかりがないという指摘も1件あった²³。

(3) 福袋の実施パターン

各地で実施される間に福袋にはさまざまな変形パターンが生まれてきた。今回収集した Twitter の投稿からも、福袋の実施方法の変形として、葉のおまけがつくもの²⁴、中身が見えるもの(大台町立図書館(三重県))²⁵ほか、視聴覚資料の福袋²⁶、福袋の内容をリクエストできるもの²⁷などが確認できた。

葉のおまけについては2件の投稿があった。中身が見える福袋がある一方、逆に中身がわからないよう、書名を記載した貸出票の発行を省略するという配慮を行った館もあった²⁸。

なお包装は、英字紙を使ったものが多く見られ²⁹、このほかに商店などの紙袋を再利用したもの（岩手県立図書館）³⁰、「福袋」専用の袋を作成したもの（江戸川区立篠崎図書館）³¹などさまざまあった。tweetに添付された写真を見ると、紙で包んで紐かけをするなど、凝った包装のものも多数あった³²。利用者からは「絵本を数冊ずつ英字新聞で包んで、お話のヒントをつけた福袋というか闇鍋的貸出がならんでた。かわいかったので写真撮ってSNS出していいですか？って聞いた（略）」というように、凝った包装を好意的に受け止めた投稿もあった³³。

福袋の内容がリクエストできるのは、矢祭もっていない図書館（福島県）の「オーダーメイド福袋」である。この福袋の紹介は、福島県立図書館によるものである（2020年5月29日投稿）³⁴。「オーダーメイド福袋」とは、利用者が、あらかじめ電話で図書館に依頼し、個別にオーダーメイドの福袋を作成してもらうというものである。また収集した投稿の中には、地域の利用者が選書する福袋について書かれたブログ記事を紹介するものもあった³⁵。ブログ記事に書かれた情報をもとに調査した結果、これは大阪市立城東図書館の「あなたがつくる図書館福袋」であることが判明した。この福袋には、地域住民に紹介してもらった本と紹介者からのメッセージカードが入っており、カードには、借りた人が感想を書けるようになっている。福袋のサービスが終了後、図書館では、「あなたがつくる図書館福袋」展として、メッセージカードの紹介文と感想の展示を行い（2020年8月1日～31日）、web上でも展示内容を公開した³⁶。

(4) 利用者の反応

「利用者」による投稿のうち、図書館福袋を見ただけでなく、実際に借りた経験があることを述べている投稿は39件あった。このうち22件は肯定的反応、1件は否定的反応、16件は肯定・否定のいずれも読み取れないものであった。

肯定的反応としては、「自分ではチョイスしないものばかりだけど、面白そう」³⁷、「図書館行ったら、こんな素敵な福袋？があったので借りてみた たのしいね わくわくするね」³⁸など、期待感を示すもの、「『おべんとう』の福袋借りたらどれも娘喜んで、特に『サンドイッチサンドイッチ』は同じように作りたい！って真似してサンドイッチ」³⁹、「図書館で福袋やってたから借りてみたら当たり ミステリーだし読みやすくて面白かった。」⁴⁰など、実際に読んでみておもしろかったとするもの、「福袋は斬新な試み」⁴¹など、アイデアの新しさを評価するものがあった。

否定的反応1件は、「（実際に借りたが）未だに手が出ず、悩む。」というものであった⁴²。この利用者が借りた福袋のテーマは不明だが、添付された写真から、中身は『「若者／支援」を読み解くブックガイド』（阿比留久美ほか著 かもがわ出版 2020年）、『LGBT ヒストリーブック：絶対に諦めなかった人々の100年の闘い』（ジェローム・ポーレン著 北丸雄二訳 サウザンブックス社 2019年）、『マイホームの彼方に』（平山洋介著 筑摩書房 2020年）などであることがわかる。

また、実際に借りなかった利用者から「お楽しみ福袋に面白そうなのは無かった」⁴³、中身が見える形式の福袋について「せっかくの福袋なのに中身がバレバレで次の人の楽しみがなくなる」⁴⁴、テーマなどの記載がなく「最寄りの図書館も福袋するけどまったくの闇鍋。ヒントがある方がいい

な〜」⁴⁵ というように、実施方法を批判したものがあつた。このうち「面白そうなのは無かつた」という投稿を行った人物（2020年4月12日投稿）は、2020年3月27日の投稿で福袋を「斬新な試み」として肯定的に評価している人物と同一であり、福袋という方法に期待感があつても、実際に読んでおもしろかつたかどうかは別であることがわかる。ほかに「|ω・)（本の福袋…目立ってないだけで…そこかしこの図書館でやってるよ……）」⁴⁶、「本の福袋ってそんなに珍しいものじゃない。図書館はもっと広報頑張らねばだね。」⁴⁷ など、すでに目新しさが薄れていることを指摘する投稿もあつた。

(5) コロナ対策としての有効性

福袋のサービスの存在をすでによく知っていると思われる利用者からの投稿も見られた。その中には、新型コロナウイルスの感染拡大のもとで、図書館が予約貸出のみに移行したり、滞在時間の短縮を求めたことへの対策として、福袋のサービス開始を求める声もあつた。「(予約しようと思つても子ども用の絵本を特定できないので) 当たり外れあつていいから大まかな年齢別で貸本福袋作つて貸してほしい」⁴⁸、「こんな時こそ図書館で福袋方式で本の貸し出しをしたらいいのに。パツと来てパツと渡して良いじゃない?」⁴⁹ など、福袋実施を要望する投稿は3件あつた。このうち、年齢別の絵本の福袋を希望した利用者は、自分が利用する市立図書館に対して実際に要望を出したことを、同じスレッド内の別の投稿の中で述べている⁵⁰。

福袋を実施している図書館側でも、コロナ対策として利用を呼び掛ける投稿が3件あつた。利用時間の短縮の告知と共に福袋をPRしている例（茅ヶ崎市立図書館（神奈川県）2020年6月16日投稿）⁵¹、「臨時休館していますが、司書が選んだ「#中学生向けのセット」が借りられます。」（名古屋市図書館（愛知県）2020年3月17日投稿）⁵²、また、「インターホンでお申しつてください」（宝塚市立図書館（兵庫県）2020年3月23日投稿）⁵³として、休館中でもあらかじめ用意した福袋は借りられることをPRしている例である。また予約貸出のみ実施していた期間に、山梨県立図書館では、過去の福袋の内容（テーマと書誌事項）をリスト化してtweetにファイル添付し、利用者へ予約を勧めていた（2020年3月7日投稿）⁵⁴。福袋の提供ではないが、過去の福袋サービスの実績を活用した対応であると言える。

4. 図書館員に対するインタビュー調査（調査2）

調査2として、生駒市図書館の入井知子氏に、図書館福袋の実施概況や貸出の成果、図書館員としての認識について尋ねた。結果は下記の通りである。

生駒市図書館では、2020年3月上旬に図書館福袋を開始した。当時、図書館では、机といすの撤去が始まり、コロナ対策が本格化していた。実施期間は、短い館は6月30日まで、長い館は8月1日までであった。

福袋は、「絵本」「小学校低学年用」「小学校高学年用」「中学生用」「大人用」の5種類を作成した。紙袋の中に、2、3冊を入れ、外側に本からコピーしたバーコードを貼って、中身を出さずに貸出できるようにした。

本館では初めてであったが、本館以外の館では、過去に実施した経験があつた。子ども用につい

ては、利用制限が始まったときに作成したブックリストをもとに、読みやすい本と合わせて選んでいった。大人用は、それぞれの職員に任せ、職員が自分なりに集めて作成した。大人用は難しく、利用者からすぐに返却されてしまうこともあった。

この時期には、図書館が休館するのではないかという利用者の危惧も広がり、テレワークで在宅している親が子どもを連れて来館するなどして福袋を借りていった。最終的に全館で3,868冊の貸出があった⁵⁵。

生駒市では、新型コロナウイルスの感染拡大のもとで、福袋以外にも、利用者と職員の文通という形での本の情報交換、オンラインでのビブリオバトル、Twitterでの「オシ本」(本の紹介)投稿など、福袋以外にも多様なサービスを展開した。

今回の調査から、生駒市では、本を紹介するためのさまざまなチャネルを用意し、福袋はそのひとつとして位置づけられていたことがわかった。入井氏によれば、従来、紙の「図書館だより」で本の紹介を行ってきた実績が、一連の事業の基礎にあるとのことだった。

5. まとめと今後の課題

5. 1 図書館福袋の本質

テーマを設定して、2, 3冊の本を用意し包装するといった一般的なパターンのほかに、さまざまな変形福袋も出現している。中身が見えるもの、地域住民による選書、個々のリクエストに沿って選書するもの等も出現しており、福袋の本質は「あらかじめ用意すること」のみにとどまっていると言えるかもしれない。同時に、「お中元」「お盆玉」(長井市立図書館(山形県))⁵⁶、「家読みセット」(図書館名不明)⁵⁷など、福袋の内容のサービスに、福袋以外の名称を使用している例も見受けられた。

また、矢祭もっていない図書館の「オーダーメイド福袋」のように、個別の要求を聞き取って本を選び、福袋の形で、対話による読書相談に近いサービスを行っている例も確認できた。

5. 2 本のおもしろさに対する知識の必要性

福袋に対する利用者からの好意的な反応としては、アイデアの新しさや開くまでのワクワクした気持ちを述べたものが多かった。しかし本の紹介として重要なのは、意外性だけでなく、読んでおもしろいことにある。福袋という形のサービスを初めて見たときは珍しく思っても、何回も実施すれば目新しさは薄れてくる。図書館員にとって意外性のあるセレクションでかつおもしろいものを作るためには、書誌事項や既存の分類にない切り口を持てること、個々の本の内容がおもしろいと知っていることが必要である。福永は、読書相談に関する研究の中で、読書相談に必要な知識を得るためには、図書館員が実際に読書をして、本の内容を知っていることが必要であると述べている(p.280-281)⁵⁸。同じことは本の福袋にも言える。現在の本の福袋の作成は、生駒市図書館のインタビューからもわかるように、仕事として「本の紹介」を行ってきた図書館であっても、かなりの部分を個人の読書の積み重ねに依存している。意識して本の紹介をしてこなかった図書館では、さらに厳しい状況であることも予想される。

内容説明的なテーマやジャンルを指定したテーマは、ある程度、従来の図書館の分類体系から抽

出できるものもある。しかし意外性を生かすには、既存の分類体系に依存せず、むしろテーマを読んだだけでは内容がわからない方がよいはずである。そのためには、実際に内容を読んで、既存のジャンルや分類体系とは違った切り口で本を集めなければならない。実際に読んでおもしろいかどうかも、読んでみないとわからない。福永も述べているように、現在の勤務環境で、勤務時間内に本を読むことが難しいことは確かである。しかし本を実際に読むことなしに、おもしろい本を紹介することは、やはりできないのである。

5. 3 コロナ対策としての有効性

本をブラウジングで選ぶことができない環境のもとでは、未知の本の紹介にあたる図書館福袋は特に有効である。閉館時間が短縮されたり、また臨時休館になった際に、本の選択を支援する手段として、今後も図書館福袋が活用されると思われる。しかし、さまざまな属性を持つ利用者の多様なニーズに対応するためには、できれば、生駒市図書館のように、本の紹介を多様なチャネルをもって行うことが望ましい。

5. 4 今後の課題

今回は Twitter 投稿を対象に調査を行ったが、関連する投稿を抽出するために、「図書館」「福袋」の語を使った。しかし実際には、図書館福袋に関する投稿の中には、これらの語を使っていない場合もある。例えば横浜市立保土ヶ谷図書館の図書館福袋を紹介した投稿（2020年6月7日投稿）には、2020年11月1日現在、「いいね」が7.6万件つくなど大きな反響があった⁵⁹。しかし「最寄りの図書館が地球上で1番面白いエンタメを提供しはじめた」という文章に福袋の写真を添付していたため、今回の調査では収集の対象にならなかった。この横浜市立保土ヶ谷図書館の福袋は、「おとな向け本のおたのしみパック」という名称で、臨時休館後の2020年6月2日から始められた⁶⁰。付箋にテーマを記載して掲示し、その付箋と引き換えに、そのテーマに即した本として選んであった本を借りられるしくみであり、福袋の名称は使っていないが、福袋と同じ内容のサービスであった。このように、投稿中に福袋の語がでてこないケース、さらに、そもそもサービスに福袋の名称を使用しないケースを収集できないことは、今回の調査方法の限界である。事例をより広く集めるために調査方法の工夫が必要である。

また図書館側から見た福袋の準備やサービスの成果については、生駒市図書館単独の調査にとどまった。個々の図書館の事情によって作業の内容や職員の意識も変わるとと思われる。ベストプラクティス事例についても、さらに調査を進めていきたい。

注

1. 嶋田学「図書館サービス総論」『図書館界』2018, 70 (1), p.173.
2. “E-1007 図書館司書が選んだ「本の福袋」の貸出”. カレントアウェアネス, 2010年1月20日, <https://current.ndl.go.jp/e1007>

3. 亀井京子「宝塚市立西図書館の『福袋』と『ぬいぐるみのお泊り会』について」『みんなの図書館』2012, (417), p.8-15.
4. “絵本福袋”. 東松島市図書館. https://www.lib-city-hm.jp/lib/2011y-library%20top/12_ehon_fukubukuro.html
5. 「親子読書マラソン定着 東松島市図書館、750組がゴール /宮城県」『朝日新聞』2009年4月22日.
6. Saricks, J.C.; Brown, N. Readers' advisory service in the public library. 2nd ed. American Library Association, 1997, 160p.
7. 前掲6
8. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版. 丸善出版, 2020, 287p.
9. 前掲8
10. 日本図書館協会編『市民の図書館』増補版. 日本図書館協会, 1976, 168p.
11. 国立国会図書館関西館図書館協力課編『日本の図書館におけるレファレンスサービスの課題と展望』(図書館調査研究レポート No.14), 国立国会図書館関西館図書館協力課, 2013, 256p.
12. 「本の魅力 今こそ知って 図書館など子ども向けに工夫」『日本経済新聞』夕刊, 2020年6月16日.
13. “図書館、悩んだ末の福袋 こんな時でも「読んでほしい」”. 朝日新聞デジタル. 2020年3月7日. <https://digital.asahi.com/articles/ASN36522NN35PTFC018.html>
14. <https://twitter.com/dalch105jp/status/1291748821274202112>
15. <https://twitter.com/melmail1011/status/1293810355039215622>
16. <https://twitter.com/edolibshinozaki/status/1240893835376332800>
17. <https://twitter.com/veveakali/status/1240854135794065408>
18. <https://twitter.com/copoyamase1/status/1238240866755661825>
19. https://twitter.com/yaya_ginjirou/status/1269824603376857088
20. 前掲18
21. https://twitter.com/mio_tkrb/status/1269180125376950277
22. 前掲17
23. https://twitter.com/yako_baum/status/1269630252398989312
24. <https://twitter.com/hanamachituki/status/1293824846728531968>
25. https://twitter.com/odai_to810/status/1251403250378567680
26. <https://twitter.com/dcm6308/status/1261275530277474304>
27. https://twitter.com/fukushim_p_lib/status/1266197569878675460
28. <https://twitter.com/sasayamat/status/1289827885520269312>
29. 前掲15, 17
30. 前掲18
31. 前掲16

32. 前掲 28
33. <https://twitter.com/fantafonte/status/1245639998939869186>
34. 前掲 27
35. <https://twitter.com/seer1118b/status/1293554855613566978>
36. “2020/08/01 [終了]【城東】図書展示「あなたがつくる図書館福袋」展”. 大阪市立図書館.
<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/index.php?key=joo3stvi8-510>
37. <https://twitter.com/nemu2house/status/1247788408862150656>
38. https://twitter.com/aloe_taniku/status/1294533974958596097
39. <https://twitter.com/suigosui/status/1241956937215827969>
40. https://twitter.com/sanny_je/status/1248166397873541120
41. <https://twitter.com/banbenbo/status/1243778606775414784>
42. <https://twitter.com/9F6rYWGVLgPuzvH/status/1271919800747388929>
43. <https://twitter.com/banbenbo/status/1249224827237367809>
44. https://twitter.com/HaRu_a_haru/status/1272153575364243456
45. 前掲 23
46. <https://twitter.com/5h1k1/status/1269984365448032257>
47. <https://twitter.com/ssss834/status/1270023761354297344>
48. https://twitter.com/cherry_zukin/status/1238037512003522560
49. <https://twitter.com/reddwarf55/status/1236856888559464449>
50. https://twitter.com/cherry_zukin/status/1238040855883026433
51. https://twitter.com/chigasaki_lib/status/1272675634276253697
52. <https://twitter.com/nagoyalibteens/status/1239789736144719872>
53. https://twitter.com/takarazuka_libr/status/1241942318812254208
54. https://twitter.com/lib_pref_ymns/status/1236147201258041345
55. 生駒市図書館の令和元年度の年間貸出冊数は134万冊である。1月当たりの平均は約11万冊、25日開館として1日平均約4500冊の貸出となる。従って、福袋による貸出は一日の平均貸出冊数をやや下回る程度にあたる。
“統計情報”. 生駒市図書館. <https://lib.city.ikoma.lg.jp/TOSHOW/html/statistics.html>
56. https://twitter.com/nagai_library/status/1285408623351365632
57. https://twitter.com/kawa_yan_yan/status/1246217977751416832
58. 福永智子「第10章 公共図書館における読書相談サービスの再構築」根本彰・齋藤泰則編『レファレンスサービスの射程と展開』日本図書館協会, 2020, 349p.
59. https://twitter.com/W_Fei_hung/status/1269484676269264897
60. “保土ヶ谷図書館 利用制限下でも工夫 「お楽しみパック」が好評”. タウンニュース. 2020年6月18日号. <https://www.townnews.co.jp/0115/2020/06/18/530636.html>

(web情報源の参照日はすべて2020年11月2日)

